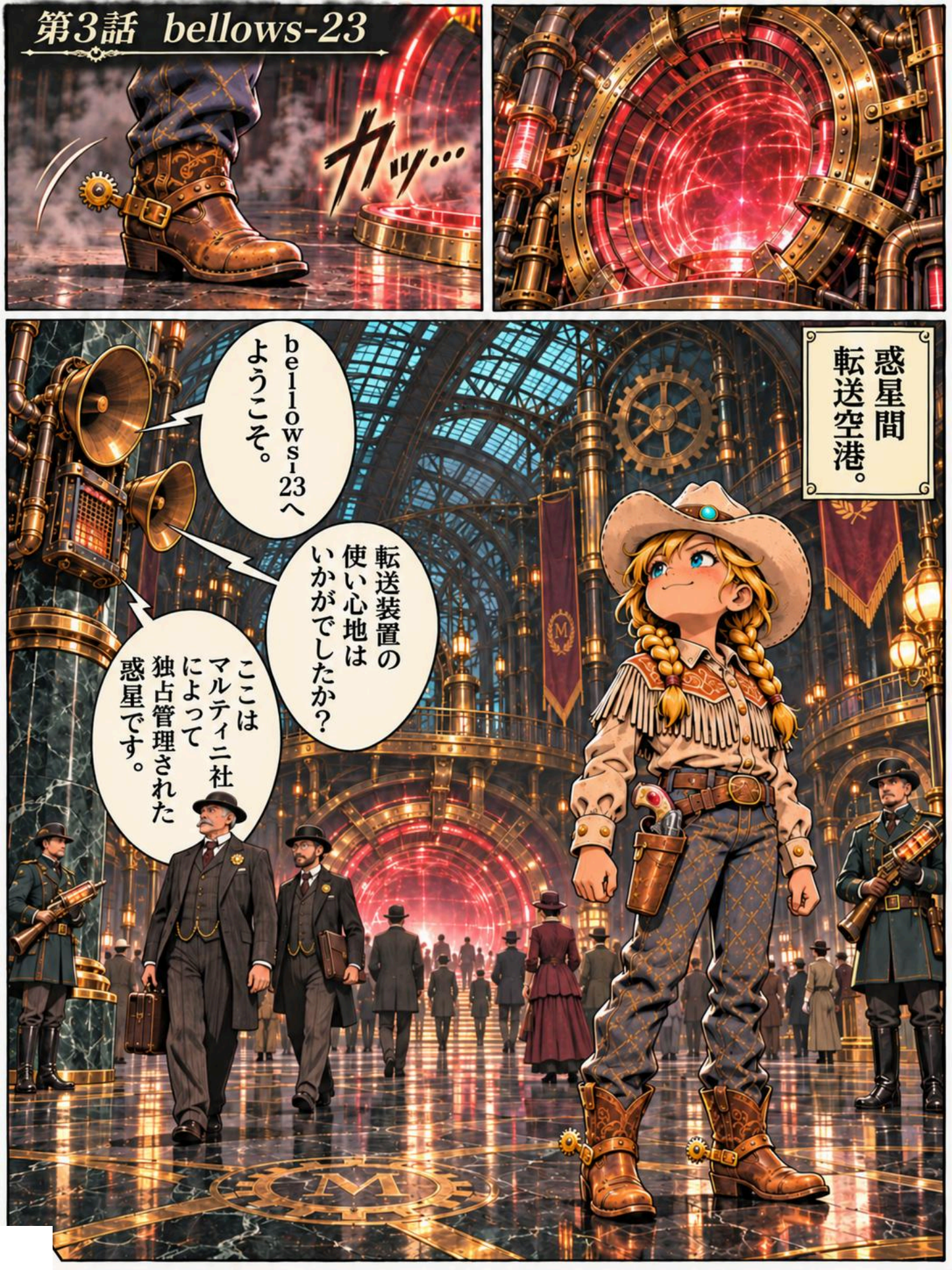
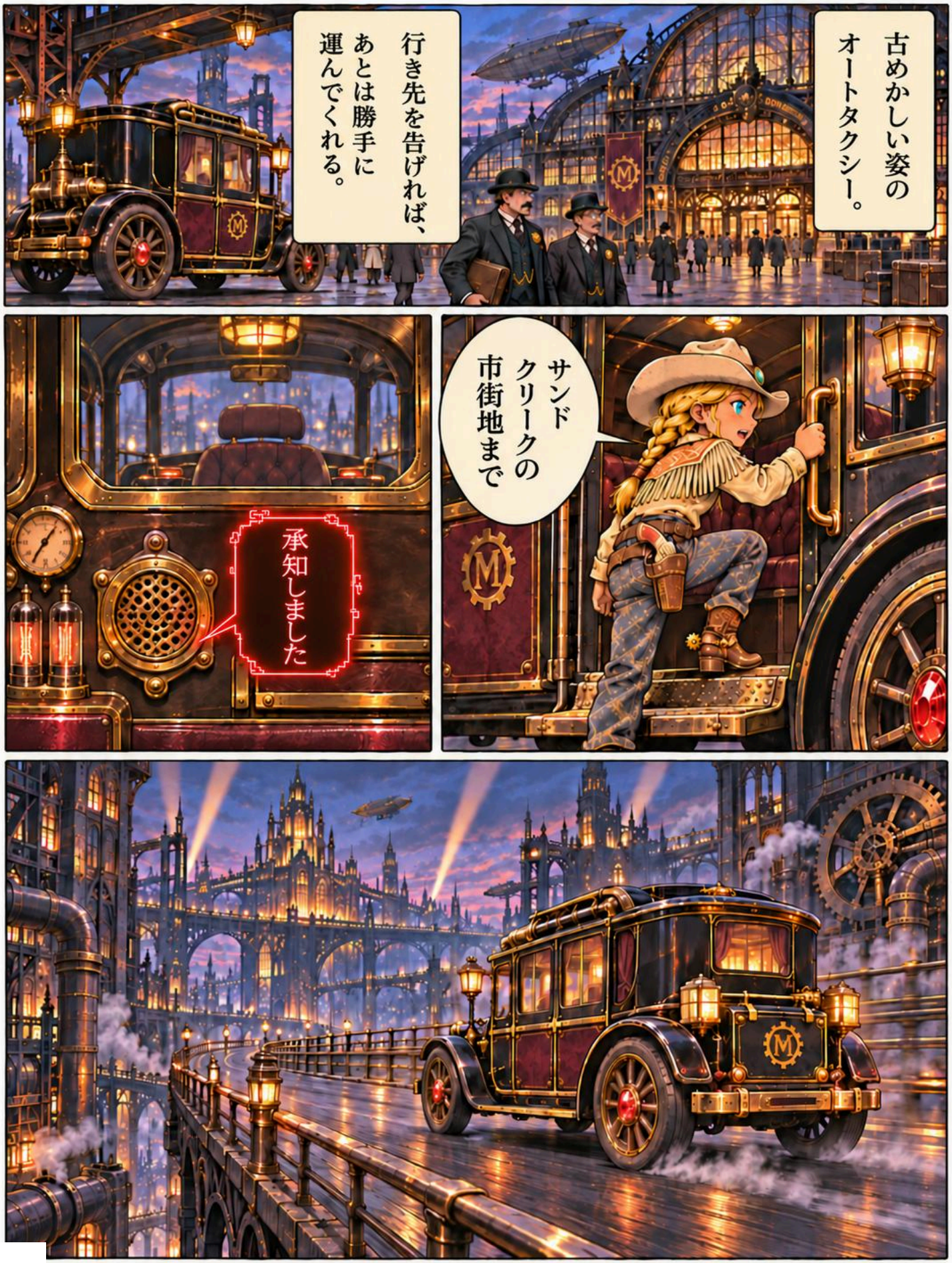

第3話 bellows-23
カッ…
惑星間
転送空港。
bellows-23へ
ようこそ。
転送装置の
使い心地は
いかがでしたか？
ここは
マルティニ社
によって
独占管理された
惑星です。


マルティニ社。
伝統と精度を誇る
銃器メーカー。
高精度の銃は、
整備と扱いの
難しさでも
知られる。
入境審査
ねぇー、
私急いでる
んだけど……
申し訳
ございません。
今しばらく
ご辛抱
ください
あっちの
レーンは
がらがら
じゃん
あちらは
当社の株主
貴族様専用
となって
おりまして……
うぇー


一時間後。
MARTINI
あー、それで。
名前と年齢と
渡航の目的は？
名前は
リベルタ・
ドレッドホーク。
年齢は
10才と少し
マルティニ社
からの
ハンティングの
依頼を受けて


そうそう
ドレッドホークって、
あの伝説の男……
ドクター・
ドレッドホークか？
てことは君が
娘の？
二年前の
戦争で
ダレル社と
戦った？
うん、
8歳の
時だね
フィスト・
バンチ強盗団を
一掃したのも？
それは
6歳の時


わお！
すげーな！
ついこないだに
君のパパを
見たよ
ああ、
そういえば
亡くなったん
だったな……
すまない
いいのいいの。
ガンマンが
死ぬのは
当たり前だもの
さ、はやく
手続きしてよ。
お腹ペコペコ！
カチャン


古めかしい姿のオートタクシー。
行き先を告げれば、あとは勝手に運んでくれる。
サンドクリークの市街地まで
承知しました


そういえばパパも、
前にこの星に
来てたんだったね
まったく、私一人に
仕事させてさ
だからおっ死んじゃうんだよ……
バカ
落チ込むナって。
自由な奴ダった
カらな、
あいツは


銃の支援ＡＩ、グリップ。
父から受け継いだ、
唯一の形見だ。
そういえば、
ここで
何してたの？
悪いガ、
そイつは
秘密ダ
機密指定
サれていル
から
言えナい
ええぇー、
なによそれ。
感じわるーい



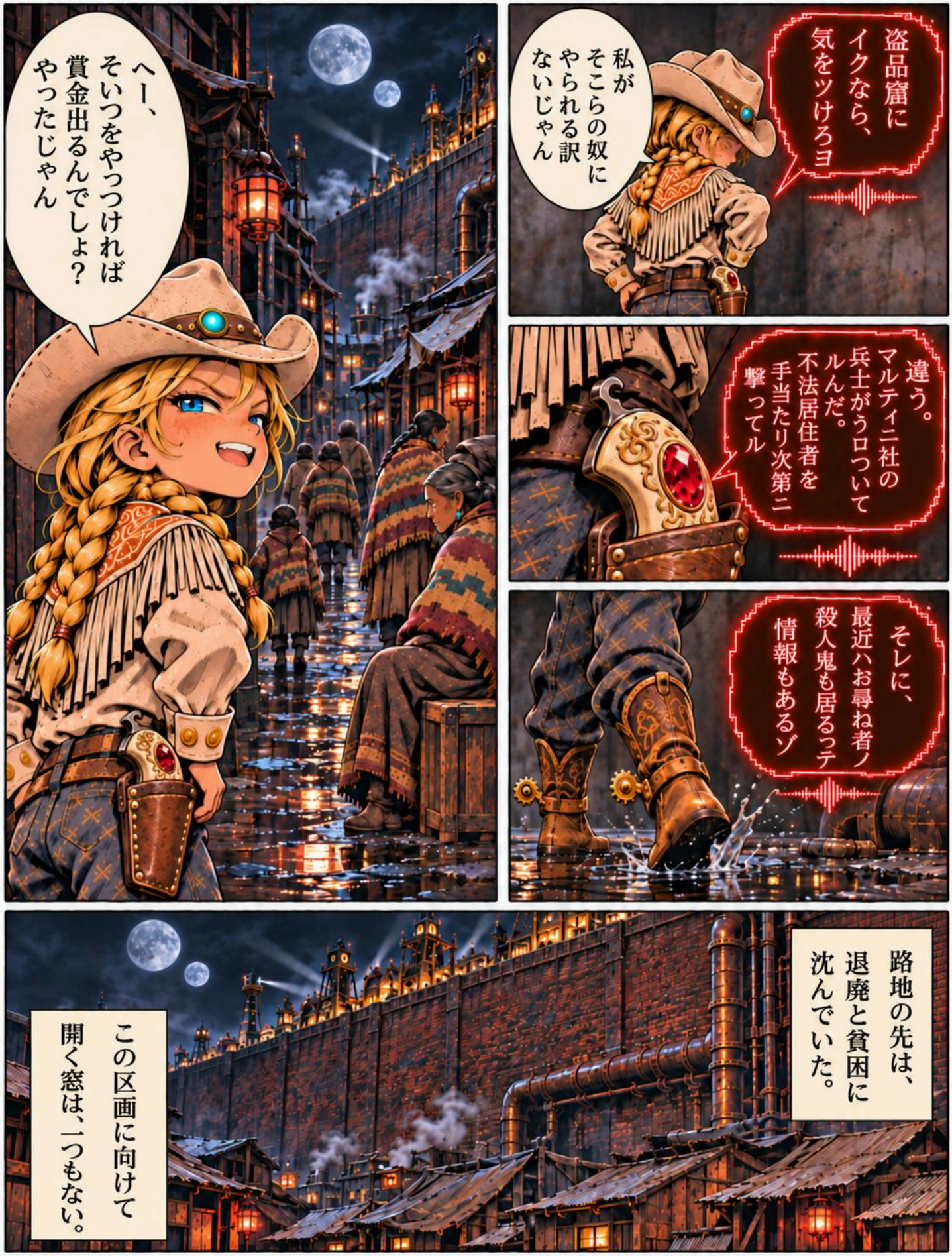
サンドクリーク。







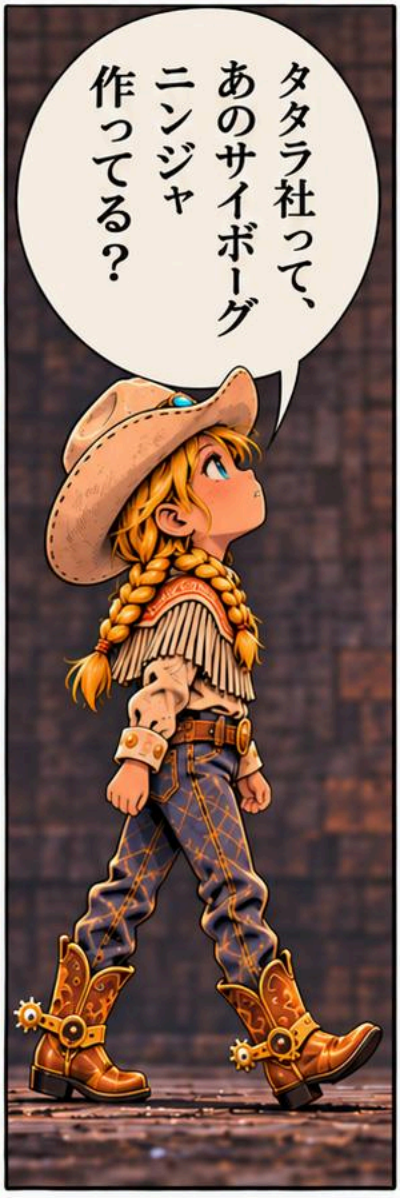
リベルタは敢えて
裏道を進んだ


盗品窟にイクなら、気をツけろヨ
私がそこらの奴にやられる訳ないじゃん
違う。マルティニ社の兵士がうロついてルんだ。不法居住者を手当たり次第ニ撃ってル
そレに、最近ハお尋ね者ノ殺人鬼も居るっテ情報もあるゾ
ヘー、そいつをやっつければ賞金出るんでしょ？やったじゃん
路地の先は、退廃と貧困に沈んでいた。
この区画に向けて開く窓は、一つもない。


この星は
マルティニが
買収するマでは、
タタラ社の
持チ物だったンダ

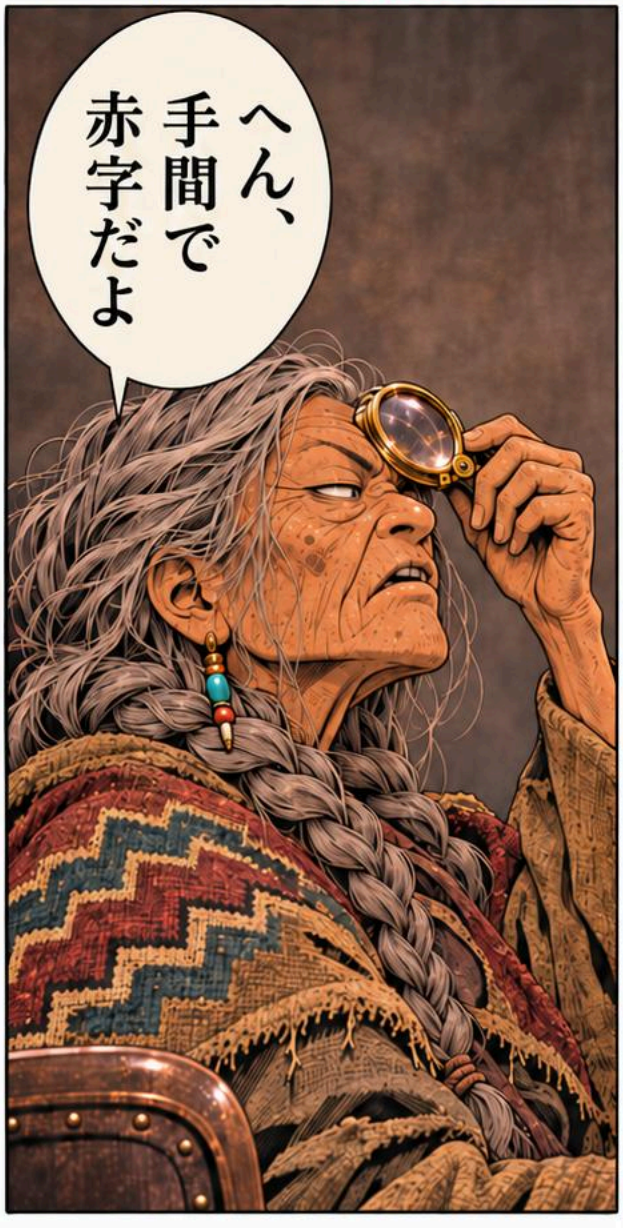

タタ……
タタラ……？
社居留地…？
旧タタラ社
居留地


MARTINI
タタラ社
ソウ、
あのタタラ
社ダ


タタラ社って、
あのサイボーグ
ニンジャ
作ってる？


へぇー
コノ辺りの先住民トか、不法居住者とか言ワれてる連中は……
見捨てラれた元タタラ社ノ社員なんダよ
ガッ ガッ ガッ
コチラハマルティニ社ノセキュリティドロイドデス
不法居住者ヘノ致死的攻撃ハ法律デ推奨サレテオリマス
あっちにもいるぞ！撃て！撃ち殺せ!!
リベルタはその光景をさして気にも止めなかった
あまりにもありふれた世界だからだ


こいつは
質がよく
ないね

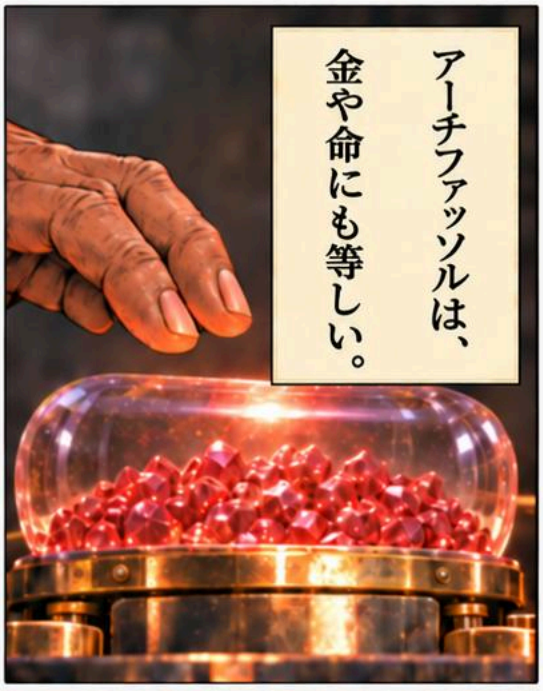

へん、
手間で
赤字だよ




知ってる。
だけど数で
つりあう
でしょ？


数十個のカプセルが、
いくつかの銃の
部品に変わった。
さて、この赤い
砂粒について
少し説明しよう。
アーチファッソル。
あるいは、単に『石』。


車、転送装置、械械馬、
歯車、ガス灯。
生物以外の動くものは、
すべて石の力で動く。
TAXI


アーチファッソルは、
金や命にも等しい。


宇宙のあちこちで見つかり、
大きいほど強力だ。


銃も、石の力で
弾体やエネルギーを
撃ち出す。


一万人を銀河の端まで
一瞬で運べても、
この石は合成できない。
だから、発見と採掘こそが
重要なのだ。説明終わり。


逃げるって、なんで？
まぁ、どうせあんたで最後の客だ。あたしらぁ、ここから逃げるでね
マルティニの連中さぁ。あいつら、また間引きをやるんだ
何十年かに一度、ネイティブ達を殺しまくるんだよ
だから、あんなに兵士たちがウロついてるんだ


だから、
ここはもう
お終いさ。
もっとましな
星へいくよ


あんたが行けるような
マシな星なんて、
どこにも無いよ。
そう思ったが、
口にはしなかった。


なぁ、お姉さん！
買い物してよ。
あんた
ガンマンだろ？


タバコ
要らない？
タバコ！


ほら、
スコープ
あるよ！
スコープ！


銃磨くよ！
綺麗にする。
その
ブーツも！

あー……
全然っ要らない
んだけど……

お、アのスコープは我等がサミュエル社ノ純正品だ

SAMUEL

値打チもノだぜ


ライフル用
でしょ、
あれ
……はぁ。
まぁ、わかったわよ
タバコは吸わないし、
ブーツは自動洗浄
されるから、
それも要らない
でもスコープは買う。
それでOK？
やった！


ピッ
髪の毛が綺麗！
かっこいい！
ありがとう、お姉さん！


この金で今夜、彼らは
暖かい食事と寝床に
ありつくのだろうか。


あーあー、
無駄なお金
使った……
まぁでも、
悪い気は
しないけど


さ、さっさとマルティニの事務所に……
キャアアアッ!!
その時、暗い路地裏に悲鳴が響いた。
第3話・了